

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) J F E ケミカル株式会社	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 111-0051 東京都台東区蔵前2丁目17番4号 J F E 蔵前ビル4階
----	-------------------------------	----	--

本票作成	部署名：西日本製造所
------	------------

主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業
-------	-------	----	----------

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容;コークス炉ガスの精製及び化学製品、無機材料の研究、開発、製造及び販売</li> <li>・従業員;451名</li> <li>・タール蒸留量;355千t/年</li> </ul>
-------	--

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	倉敷工場	岡山県倉敷市水島川崎通1丁目
	②	笠岡工場	岡山県笠岡市鋼管町9番2

特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)
------------	--

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 21 年度)	(平成 25 )年度排出量	目標年度(平成 26 年度)
	264,816 t CO <sub>2</sub>	284,393 t CO <sub>2</sub>	262,168 t CO <sub>2</sub>

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 23 )年度排出量
	①	倉敷工場	199,032 t CO <sub>2</sub>
	②	笠岡工場	85,361 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：	平成 22 年度	～	平成 26 年度	( 5 箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 25 )年度削減実績	目標削減率	目標達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 2.8 %	4.9 %	<input type="checkbox"/> 達成	<input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 設備別の補正装入量の合計	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 25 )年度	目標年度
		247 t CO <sub>2</sub> /(千 t )	254 t CO <sub>2</sub> /(千 t )	235 t CO <sub>2</sub> /(千 t )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 25 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

計画された省エネ対策及び追加された省エネ対策を検討実施したが、5年間で原単位平均1%削減の目標に対し、H25年度単年では、H24年度の244tCO<sub>2</sub>/千tから4.1%増加し、H22年度以降年平均0.8%の増加となり、目標達成が困難な状況である。未達成の理由では、電力のCO<sub>2</sub>排出係数が増加した影響が大きく、仮にH24年度の係数をH25年度も引き続き使用していた場合、H25年度の原単位は243tCO<sub>2</sub>/千tとなり、H24年度から0.33%削減できていた。また、JFEケミカル(株)全社の省エネ法の対応では、エネルギー使用量は年平均1%削減の目標達成ペースで進捗しているが、岡山県内の2工場においては、下記の理由によりエネルギー使用量の削減の目標達成が困難であり、CO<sub>2</sub>排出削減は未達となる可能性が高い。  
 ①倉敷工場:生産バランスの変化や外注工程の社内取り込み等によるCO<sub>2</sub>排出原単位の増要因がある。  
 ②笠岡工場:省エネ対策が岡山県笠岡市側ではなく投資対効果の高い広島県福山市側の設備に集中している。  
 上記①及び②はいずれもトータルではCO<sub>2</sub>排出削減に貢献している。今後は、排熱回収等も検討し、岡山県内の原単位削減を推進する。

**【推進体制】**

半期毎の予算編成時に総括室が各部署の省エネテーマを吸い上げ、計画を策定し、担当部署（総括室・各工場・設備管理室）を決めて実行している。毎月、製造所長・総括室長・各工場長以下のメンバーで開催される生産会議及び環境管理委員会において、各テーマの進捗状況について担当部署が報告を行い、フォローしている（両工場ともISO14001を取得済み）。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
笠岡工場	(H25年度実施分) ・インデン誘導体原料タンク間移送ポンプ停止による省電力  (今後実施予定分) ・新規テーマの探索を検討中
倉敷工場	(H25年度実施分) ・脱硫スラリー燃焼ボイラー蒸気回収増 ・ピッチ冷却設備(攪拌クーラー)の蒸気使用量削減 ・減圧AST保温による蒸気削減 ・減圧AST定修月変更による省エネ  (今後実施予定分) ・脱ナフ設備蒸気ドレン回収 ・CFOのJBO化による省エネ

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

--